第２号様式（公開）

平成　30 年　５月　13 日

“スタートアップ”部門　まちづくり活動計画書

1　助成を受けようとするまちづくり活動について

団　体　名	Varifran（ヴァーリフラン）	
まちづくり活動名	親子プログラミング体験ミニ講座	
活動地域	名古屋市中区	
活動の背景	H32 年度より実施される公教育におけるプログラミング授業化に向け保護者の方々が困惑なさっていることから、公教育のみならず地域の大人や保護者が直接子供たちに教育指導していく必然性を感じた。	
目的・目標	（活動の目的と、活動により実現したい目標及び成果を具体的かつ簡潔にご記入ください。） ■目的 H32 年度より小学校でプログラミングが授業化されることを契機として教育関係者のみならず地域の全世代が学びとは何か捉え直し論理思考を身に付けることが出来るようプログラミング習熟の場を創出する。 ■目標　地域にプログラミングを通じた子育て支援の絆をつくる。 ■成果 プログラミング学習により論理的な思考が出来る人材育成。 親子の間柄で教え合い学び合う尊重し合える絆が生まれる。 地域の人々が中心となって子供を育てるまちづくりの構築。	
活動内容	（上記の目的、目標に沿って、活動内容や実施方法を、具体的かつ簡潔にご記入ください。） 小学生と小学生の親御さんに向けたミニ講座の開講。 ３組以上６組程度の親子にプログラミングに親しんでもらい、そこで学んだプログラミング技術を地域の遊びであり学びとして活かしてもらえる体験指導を行います。 地域ぐるみでプログラミングを活かした子育て支援のネットワークをつくり、地域の人的資源を豊かにすることを目的とします。ミニ講座で実際にプログラミングを我々が開発したデモ機が実際に動くことを確認しながら試行錯誤を繰り返し思い通りに動くまでを親子で体験してもらいます。	
活動予定期間	平成　30 年　4 月　～　平成　31 ~~37~~ 年　3 月	
助成金交付申請額	50000 円	※1 回目（上限５万円） ※2 回目、3 回目（上限 10 万円）

2　まちづくり活動の視点

以下の視点で活動内容についてご記入ください。

審査基準① **必要性**	・地域に根ざしたまちづくり活動内容か ・自分たちの住んでいる地域を住みよい環境にする活動か ・活動の実施にあたって、まちづくり活動助成金が必要な活動か ・活動メンバーのみの趣味や仲間づくりではなく、多くの人に理解や共感が得られる活動か
名古屋市中区の小学生親子に集まってもらい、プログラミングを活かし、地域ぐるみで子育て支援の輪が広がる活動にしていく。 子どもは地域みんなの財産であり未来である。子育て支援は地域の人の繋がりを濃くし、地域共有の未来への財産づくりになる。 少子高齢化により若年層の希少性が高まっているのも関わらず地域が自治的に子供を育成する仕組みはまだまだ出来ていない現状である。 地域の関りが薄くなり世代や生活スタイルで分断されてしまったいま、大人たちにとって次世代の育成は潜在的な思いがあっても取り組みにくい課題である。 また小学校におけるプログラミングの授業化で保護者にも教育関係者にもそれをどう受容すべきかと動揺が走っている。多くの大人たちにとってプログラミングは未修得分野でありそれをどう子供たちに分かりやすく教えるかとなると実施するのは至難の業だと感じている。そこでいま子供のプログラミング教育支援という側面で子供や子供を育てる人々をサポートするのはとても重要性の高い地域課題である。 プログラミング教育は論理思考を育て文理を超えた学力の基礎を作る。また子供たちにとっても工夫を凝らし子供の目線で学びのステップを踏まえたコンテンツに取り組むことはゲーム感覚で楽しい。 公教育でプログラミング授業化という話題に保護者の方々の関心が高まっている今こそ、子育て支援の絆を地域で創出する必要がある。 この事業でのプログラミング教育という学び体験を通じ親子の絆が深まる。	
審査基準② **実現性**	・活動内容が具体的になっているか ・活動内容の資金計画などは妥当か ・人員や規模などは妥当か
（活動の実現性について、上記観点から分かりやすくご記入下さい。） 親子プログラミング体験セミナーを開講する。 それに当たって、大学でプログラミングを教えている講師であり民間のプログラミング塾に教材を納品している業者でもある成田さんと Code For Aichi が教材開発をする予定。	
審査基準③ **発展性**	・今後の活動の発展にむけての視点や計画があるか ・活動実施後に、地域のまちづくり活動にどのような波及効果を及ぼせるか
（活動の発展性について、上記観点から分かりやすくご記入ください。） 地域で子供たちにプログラミングを教える活動は様々な場での活動展開が期待できる。今後はフリースクールや学童保育、院内授業への訪問、引きこもりや不登校の子供たちのお宅訪問などにも活動の場を広げていきたい。	

3　活動にあたり他団体（町内会、自治会他）、企業、行政の部署など協力する又は調整を図る必要がある場合には、その名称と内容を記入してください。既に連絡等を取っている場合にはその日付も記入してください。

名　　称	内　　容
Code For Aichi	発達プログラミングコンテンツ作成支援 （5月 13日）親子で
RPE パーツ(株)	発達プログラミングコンテンツ作成支援、製作部品仕入れ先として （5月 30日）

※第２号様式は３ページ以内でご記入ください。用紙の大きさは、日本工業規格Ａ４とする。

第２号の２様式（公開）

まちづくり活動の実施スケジュール

・活動の実施日だけでなく、それに向けた準備（団体の打合せ、広報）についても具体的に記入してください。
・１ページにおさまるように記入してください。

年	月	活動項目	活動内容
３０	4	臨時例会：4月20日	活動内容策定
	5	臨時例会：5月10日	協力関係企業や団体決定
	6	定例会：6月6日	協力申請したい団体、企業、行政窓口の検討。構成員が持てる人的リソースの洗い出し。
	7	定例会：7月4日	例会やミニ講座、イベントの会場を検討。
	8	定例会： 集中会議 8/4（土）8/5（日）	数年の事業計画策定、ミニ講座とイベント策定、会員の制度設計、予算コンテンツ作りの見通しを立てる
	9	定例会：9月9日	８月の集中会議で決定した事柄の遂行進捗状況報告と見直し。
	１０	定例会：10月3日	８月の集中会議で決定した事柄の遂行進捗状況報告と見直し。
	１１	定例会：11月7日	親子ミニ~~セミナー~~講座の準備。次年度の計画立案。
	１２	定例会：12月5日	ミニ講座開催の最終確認、イベントの準備。次年度計画の運営実行の問題点洗い出し。
３１	1	親子ミニ講座 1/13（日）	親子ミニ講座開催：デモを何度も動かしながらプログラミングが正常に書けているかを体験してもらう。
	2	定例会：2月6日	ミニ講座の反省を受けて教材修正
	3	定例会：3月6日 決算予算案報告会	H30 年度の決算と H31 年度の予算報告。課題と目標洗い出し。

備考　用紙の大きさは、日本工業規格Ａ４とする。

第２号の３様式（公開）

まちづくり活動の予算書

１　支出

計画書の活動における支出（予算）をご記入ください。

費　目 手引きの費目を参照		活動項目	内訳・算出根拠	金　額 （円）
まちづくり活動助成金（申請金額） ※活動経費の内、助成対象となる経費が対象です。 ※上限金額：１回目は５万円、２回目、３回目は１０万円				50000
活動経費の内訳	消耗品費	ミニ講座	模造紙、マーカー、付箋紙などのミニ講座開催時の事務用品	5000
	印刷費	ミニ講座	ミニ講座配布資料　10冊	5000
	物品費	ミニ講座で使用（プログラミングが正常にデモで動くかを視認するための教材）	Raspberry Pi Zero W スターターキット　３つ　(1つ5000円) 電源　３つ　(1つ1000円) ブレッドボード　３つ　(1つ1000円) ジャンパワイヤ　３つ　(1つ1000円) モータ　３つ　(1つ500円) LED　３つ　(1つ500円) 抵抗　３つ　(1つ300円) コンデンサ　３つ　(1つ200円) IC　３つ　(1つ500円)	15000 3000 3000 3000 1500 1500 900 600 1500
	賃借費	集中会議、定期及び臨時例会	定例会会場費 集中会議会場費	5000 5000
	通信費	活動報告、領収書、請求書発送	発送先５件	500
支出合計				57000

※１ページにおさまるよう記入してください。用紙の大きさは、日本工業規格 A4 とする。